

土井代表から3年間の経過報告を受ける出席者



「ものづくり道場」JSTの支援期間終了

鳥大で成果報告会

地域支える人材養成

事業の継続、発展目指す

独立行政法人科学技術振興機構(JST)の支援を受け、鳥取大学や自治体などで構成する「ものづくり協力会議」(代表・土井康作鳥大地域学部教授)が実施してきた「ものづくり道場」が、区切りを迎えた。鳥取市湖山町南4丁目の鳥大で成果報告会が行われたが、子どもや地域にものづくりの楽しさを伝える指導者は100人を超えており、地域発展を支える人材育成につながっている。

事業では子どもや地域に簡易モーターや廃油ろそうきなど、さまざまな分野でものづくりの技術と楽しさを伝える人材を養成してきた。

2008年に協力会議を組織し、鳥取、米子、倉吉の県内3市に道場を設置。ものづくりネットワークの形成や指導者養成講座、使用道具や図書の充実などの環境整備にも取り組んでいる。

指導者の養成は、基礎・指導法講座から始まり、電気系や機械系、生物系など6分野

の専門講座からテーマを選択受講。習得したテーマで子どもたちに実際に指導する演習があるが、修了生は105人に達した。

JSTの3年間の支援期間は本年度で終わるが、活動のひと区切りとなる報告会には約100人が出席。能勢隆之学長のあいさつに続いて、道場に参加した講師や修了生が活動を振り返った。このうちジャム作りの講師を務めた寿製菓(米子市)の木村英人さんは「地域でサポートして、子どもたちに技術を身に付けてもらうことが、地域や企業の発展にもつながる」と報告した。

土井代表は事業の順調さを喜ぶ一方で、「質の高い指導のためには修了生のスキルアップも必要」と、修了生を支援する「ものづくりコミュニティ」の充実を課題に上げた。次年度以降は「ものづくり協力会議」を主体に、事業を継続発展させることにしている。

(川上学)